

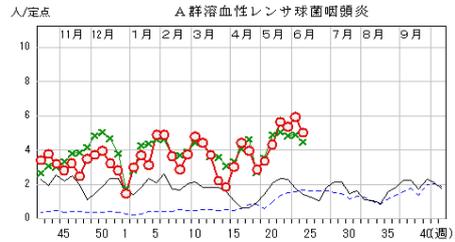
# 長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2024年第24週 2024年6月10日（月）～ 2024年6月16日（日） 2024年6月20日作成

## ☆定点<sup>※</sup>報告疾患（定点当たり報告数の上位3疾患）の発生状況

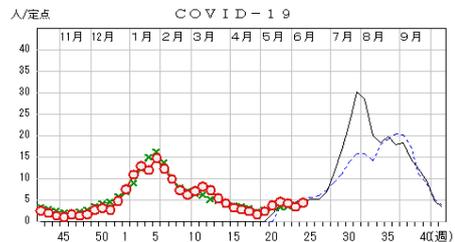
### （1） A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第24週の報告数は221人で、前週より40人少なく、定点当たりの報告数は5.02であった。  
 年齢別では、7歳（26人）、4歳（25人）、10～14歳（25人）の順に多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（18.40）、西彼保健所（6.75）、対馬保健所（5.00）であった。



### （2） 新型コロナウイルス感染症

第24週の報告数は305人で、前週より66人多く、定点当たりの報告数は4.36であった。  
 年齢別では、70～79歳（37人）、30～39歳（36人）、50～59歳（33人）の順に多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（9.63）、対馬保健所（8.00）、壱岐保健所（4.00）であった。



### （3） 手足口病

第24週の報告数は150人で、前週より21人多く、定点当たりの報告数は3.41であった。  
 年齢別では、1歳（74人）、2歳（37人）、3歳（14人）の順に多かった。  
 定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（7.33）、県央保健所（5.00）、長崎市保健所（4.70）であった。



○ 当年(長崎県)      ー 前年(長崎県)  
 × 当年(全国)      - - 前年(全国)

※インフルエンザ/COVID-19定点数：70、小児科定点数：44、眼科定点数：8、基幹定点数：12

## ☆上位3疾患の概要

### 【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

第24週の報告数は221人で、前週より40人少なく、定点当たりの報告数は5.02でした。地区別にみると県南地区（18.40）、西彼地区（6.75）は他の地区より多く、特に県南地区は警報レベル開始基準値「8.0」を超えています。今後も予防に努めましょう。

本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。急性期患者の感染力は強いですが、適切な抗菌薬の投与により、多くは1日から2日後には症状も消失し、感染力も著しく低下します。不十分な治療は無症状保菌者を生じやすいため、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【新型コロナウイルス感染症】

第24週の報告数は305人で、前週より66人多く、定点当たり報告数は4.36でした。地区別にみると、県南地区（9.63）、対馬地区（8.00）は他の地区より多くなっています。年代別では10歳未満から30代において、前週より増加しています。多くの地区で前週より増加していますので、今後も動向に注意しましょう。

本疾患の主な症状は、発熱、咳、全身倦怠感等の感冒様症状で、主に飛沫感染や接触感染により感染します。場面に応じたマスクの着用や手洗い、換気、三密の回避などの基本的な感染対策に努めましょう。

【手足口病】

第24週の報告数は150人で、前週より21人多く、定点当たり報告数は3.41でした。地区別では、佐世保地区（7.33）、県央地区（5.00）は、他の地区より多く、警報開始基準値「5.0」を超えています。

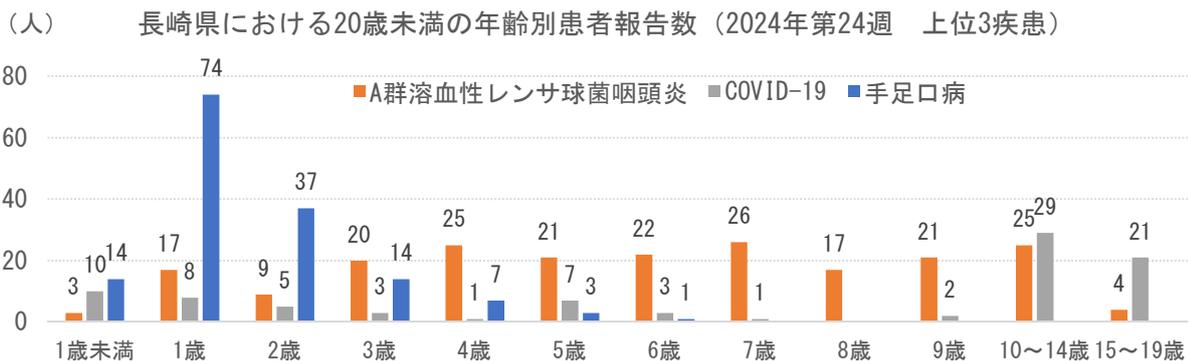
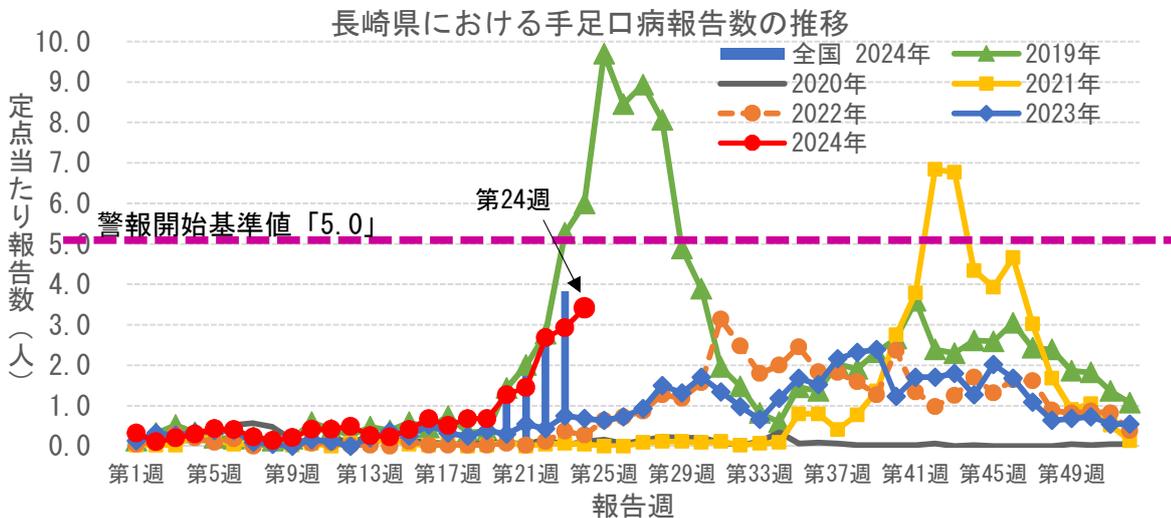
本疾患は、口腔粘膜および四肢末端に現れる水疱性発疹を特徴とする乳幼児に多いウイルス性疾患です。感染経路は、糞口感染、飛沫感染で水疱内容液からも感染します。手洗い、うがいを励行し、感染防止に努めましょう。原因ウイルスの種類によっては手足口病とともに無菌性髄膜炎や脳炎を併発させることもありますので、早めに医療機関を受診しましょう。

☆トピックス：手足口病に注意しましょう

手足口病は、その名のとおり四肢および口腔内に水疱性の発疹を生じる疾患です。乳幼児での発症が多く、例年報告数の9割程度を5歳以下が占めますが、大人でも感染する可能性があります。主として咳やくしゃみなどのしぶきを介した飛沫感染や、飛沫や便に含まれるウイルスが手指を介して口から侵入する接触感染により広がります。主な原因ウイルスとしてコクサッキーウイルスA6(CV-A6)、CV-A16、エンテロウイルス71型(EV-A71)が知られています。

基本的には予後良好な疾患ですが、原因ウイルスによっては、中枢神経系合併症などのほか、心筋炎、急性弛緩性麻痺などの多彩な臨床症状を併発することがあります。

例年6～7月に流行する傾向にあります。長崎県の第24週の定点当たり報告数は「3.41」で5週続けて増加しています。地区別では、佐世保地区（7.33）、県央地区（5.00）が多く、警報開始基準値「5.0」を超えています。年齢別では、1歳と2歳で全体の75%を占めています。今後も手洗い、うがいを励行し、感染防止に努め体調管理に気をつけましょう。



★トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる3月から11月に増加します。

SFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、頭痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴うこともあります。重症化すると死亡することもあり、致死率は10～30%といわれています。

県内では**2024年第24週までに11件**の報告があります。2019年以降に報告された患者は、40～90代で、70代と80代で75%を占めています。

近年、SFTSを発症したネコ及びビヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

日本紅斑熱は、発熱、発疹が主な症状で、頭痛、倦怠感を伴うこともあります。

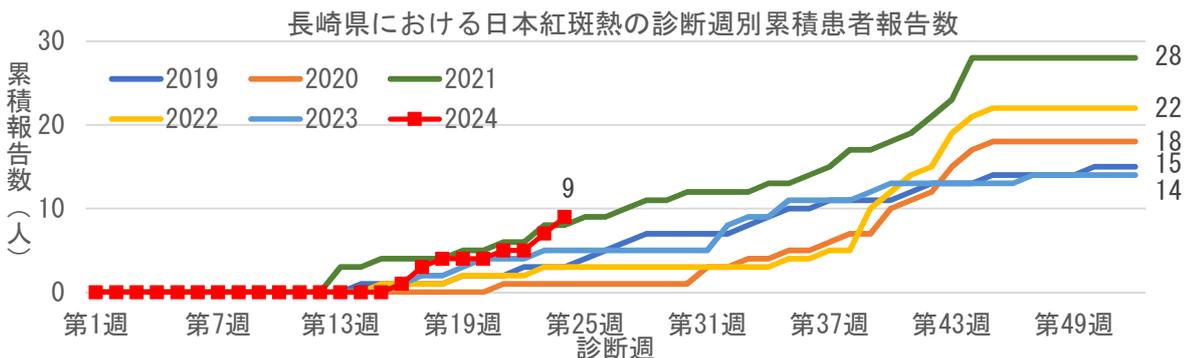
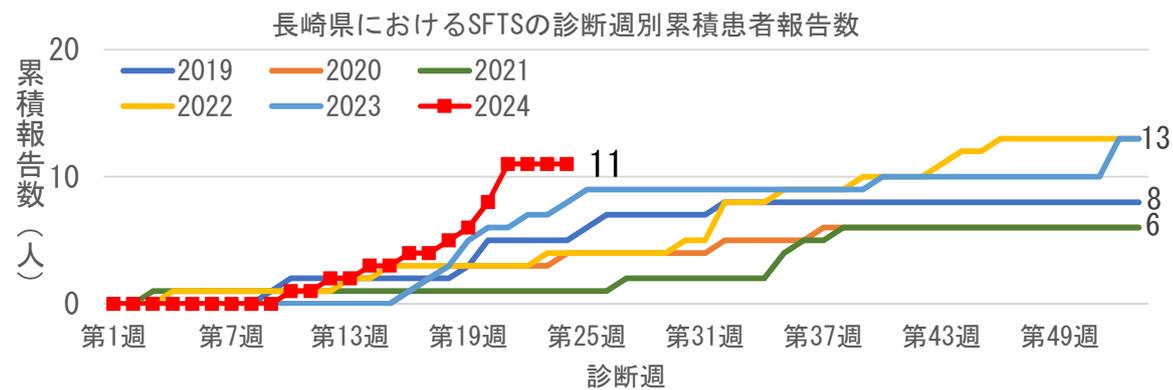
県内では**6月に4件の報告**があり、例年の同時期より多くなっています。過去5年では20代から90代の報告があり、60歳以上で85%以上を占めます。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2019	2020	2021	2022	2023	2024
SFTS	8 (5)	6 (4)	6 (1)	13 (4)	13 (8)	11
日本紅斑熱	15 (3)	18 (1)	28 (8)	22 (3)	14 (5)	9
つつが虫病	1 (0)	11 (0)	14 (1)	7 (0)	15 (3)	1

※( )は第24週までの発生件数



◆全数届出の感染症

- 2類感染症：結核 患者 男性（60代・1名） 女性（80代以上・2名）  
無症状病原体保有者 女性（30代・1名）
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 患者 女性（20代・1名）  
無症状病原体保有者 女性（40代・1名）
- 4類感染症：日本紅斑熱 患者 男性（70代・1名） 女性（70代・1名）
- 5類感染症(全数把握対象)：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 患者 男性（60代・1名、70代・1名）

◆定点把握の対象となる5類感染症

(1) 疾病別・週別発生状況 (第19~24週、5/6~6/16)

疾患名	定点当たり患者数					
	19週	20週	21週	22週	23週	24週
	5/6~	5/13~	5/20~	5/27~	6/3~	6/10~
インフルエンザ	0.30	0.17	0.16	0.29	0.11	0.09
新型コロナウイルス感染症	2.43	3.74	4.59	4.31	3.41	4.36
RSウイルス感染症	0.77	1.11	1.64	1.25	1.82	1.70
咽頭結膜熱	1.02	0.95	0.70	1.70	1.05	0.91
A群溶血性链球菌咽頭炎	3.36	4.32	5.66	5.36	5.93	5.02
感染性胃腸炎	2.02	3.34	3.68	2.86	2.43	1.80
水痘	0.18	0.09	0.30	0.14	0.27	0.30
手足口病	0.68	1.27	1.45	2.68	2.93	3.41
伝染性紅斑（リンゴ病）					0.02	0.05
突発性発しん	0.36	0.50	0.25	0.34	0.30	0.36
ヘルパンギーナ	0.02	0.16	0.18	0.25	0.55	0.30
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）		0.02	0.05	0.09	0.02	0.07
急性出血性結膜炎	0.13					
流行性角結膜炎	0.63	0.38	0.25		0.50	0.88
細菌性髄膜炎				0.08		
無菌性髄膜炎						0.08
マイコプラズマ肺炎		0.08	0.17	0.08	0.08	0.08
クラミジア肺炎（木嶋病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）				0.08		

(2) 疾病別・保健所管内別発生状況 (第24週、6/10~6/16) ※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾患名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	0.09	0.27		0.33		0.18					
新型コロナウイルス感染症	4.36	3.82	3.76	4.00	2.50	3.00	9.63	3.75	3.00	3.67	8.00
RSウイルス感染症	1.70	2.33	3.30		0.50	0.86	1.00	4.67		0.50	
咽頭結膜熱	0.91	0.17	0.70		0.75	2.00	0.40	2.33	0.67		2.00
A群溶血性链球菌咽頭炎	5.02	4.50	2.20		6.75	4.57	18.40	2.33	1.33		5.00
感染性胃腸炎	1.80	3.83	1.80		1.50	2.86	0.80	2.67			
水痘	0.30	0.67	0.70			0.14	0.20				
手足口病	3.41	7.33	4.70	1.00	1.00	5.00	1.00	2.00	2.33		
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.05				0.50						
突発性発しん	0.36	0.33	0.40	0.50	0.50	0.57		0.67	0.33		
ヘルパンギーナ	0.30	0.17	0.60	0.50	0.25	0.43	0.20				
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.07		0.20		0.25						
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	0.88					1.00	6.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08		0.33								
マイコプラズマ肺炎	0.08		0.33								
クラミジア肺炎（木嶋病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											